合併 70th・50th 町制施行
自然と共存していく日の出町の未来へ
大久野中 コミュニティ・スクール
日の出町立大久野中学校
CSだより　第　３　号
令和７年１２月２５日

教育目標　「自ら進んで学ぼう　　思いやりの心 感動する心をもとう　　たくましく 心とからだを鍛えよう」



平成３年度卒業生の有志 36 名による校名看板を新規作成、付け替えにより、地域とのつながりを一層深めることができました。そして、第３回の学校運営協議会の開催は、「体験的な学び」「地域人材の活用と交流」そして「新たな取組」という３つの柱を具体化するものであり、学校運営の新たな方向性を示す熟議となりました。

１　来年度に向けた町の取組

(1)コミュニティ・スクールの拡充計画

現在、町全体でコミュニティ・スクールを拡大する計画があります。来年度には**町内１校**が立ち上げる予定であり、その翌年から順次拡充して導入が進む見込みです。

(2)町の教育ビジョンの更新

町の**「教育ビジョン 2023」**が今年度で終了し、来年度から新たなビジョンの策定が開始されます。それに先立ち、来年の１学期には「教育ビジョン 2023」の成果をまとめる会が開催される予定です。次の新しいビジョンは、今後の学校運営や地域連携の方向性を定める上で重要な指針になると考えています。

２　来年度の取組に向けた意見交換

（1）休み明けの取組案（かき氷大会・ビンゴ大会・青春号バスの活用等も検討）

全ての生徒が学校に来ることを楽しめるようなイベントのアイディアが議論されました。

①かき氷大会

夏休み明けの９月１日の始業式に、生徒全員に**かき氷**を振る舞う企画です。長期休業明けに登校への不安を感じる生徒に対し、学校へ足を向ける前向きなきっかけとなればと考えています。協議会メンバーの一人がキッチンカー「マジックフード」でかき氷を提供できることが判明し、計画は一気に具体化しました。子供たちは大人が求める高級感のある、「ふわふわ」よりも「ガリガリ」した食感のかき氷が好まれるという実践的なことも分かり、来年９月の実施に向けて計画が進められることとなりました。



②全校ビンゴ大会

始業式を利用して全校一斉の**ビンゴ大会**を行う案です。景品には大中Ｔシャツなどが考えられています。これも、学校行事への参加のハードルを下げ、生徒が楽しみを動機に登校できる環境を作ることを目指している。

（2）地域人材を活用したヨガ教室・ストレッチ体操

健康増進と学校内の新たな交流を目的と考えています。教職員と生徒と保護者が指導を受ける側として「同じ目線」で活動に参加することにより、信頼関係を育む貴重な機会となることが期待されます。地域の人材活用として、元平井中学校 PTA 会長である小沢氏を講師としてお招きする案を考えています。開催頻度は年 2～3 回、会場は空調設備が完備された本校体育館を利用することで季節を問わず実施可能であることが確認されました。また、運営資金についての案は、PTA の活動予算等を活用できればと考えています。



同じように地域人材の活用で講師をお呼びし、**ストレッチ体操（健康体操）**の案も考えています。

(3)学校運営協議員及び地域人材を活用した生徒の面接練習

高校の推薦入試等を控える３年生の**面接対応力の向上**です。現在、校長による面接１回、副校長・スマイル長・副校長補佐による面接を１回実施しています。来年度、この２回の練習に加え、学校運営協議会委員など、生徒が見慣れない地域の大人による３回目の面接練習を導入したいと考えています。その最大のねらいは、本番さながらの緊張感を経験させることで**「慣れ」**を生み出し、生徒の心理的負担を軽減することにあります。適度なプレッシャーのかかる模擬面接を乗り越えることで、**「本番はあれより楽だ」**と感じさせ、自信をもって本番に臨ませるという心理的な効果を期待しています。



(4)花ボランティアにおける東京都都市緑化基金の活用

【基　金】 令和７年度東京都の**都市緑化基金**

【補助金】 初年度 **10 万円**、２年目および３年目に**各５万円**（3 年間で合計 20 万円）



当初は都の補助金で対応する方向でしたが、これを活用した町のボランティア活動資金では苗木の費用を賄えなくなる方向性が分かり、より持続可能で安定した資金源を確保するため主体的に調べた結果、本基金を発見し応募、当選となりました。上記基金とは別に、**宿根草など球根 50 鉢の無償提供**に関する募集にも応募し当選しました。本基金は緑化活動に特化したものであり、他の学校関連予算や補助金とは明確に区別して管理・運用する必要があり、他の補助金との重複を理由に減額されることのないよう、正しく認識しておくべきことがでました。

(5)地域人材と既存本を活用した町史の伝承

これから学校に寄贈される、地域の歴史を知る上で貴重な資料を活用し、地域人材（高齢の方々）による講演、講座を実施する案を検討しています。生徒が自分たちの住む町を知るだけでなく、それを家庭で話すことで、親世代が知らない地域の歴史を子供から学ぶ**「逆発信」**の効果をねらう考えです。これは、「硬券鉄道切符」を知らない世代が増えているという議論から派生したアイディアであり、世代間の知識や文化の伝承を促すことを目指しています。



３　最近の特色ある教育活動について

(1)ビブリオバトル

国語の授業の一環として、生徒が自身の推薦する本を紹介し合う**「ビブリオバトル」**が実施されました。特筆すべき点として、１年生と２年生の混合グループで実施され、学年を超えた交流と学び合いの機会となったことが挙げられました。紹介される本も小説にとどまらず、多様なジャンルに及び、生徒の自由な発想と表現力を引き出す試みとしていました。この活動は、生徒の**プレゼンテーション能力**を高めると同時に、読書への関心を深める効果が期待されています。

(2)「今年の漢字一字」への参加

日本漢字能力検定協会主催の「今年の漢字」全国投票に参加し、校内に投票箱を設置しました。本校生徒からの投票は全国集計に合算され、結果的に**「熊」**が今年の漢字に選ばれました。

本校　第一位 **28 票**「熊」　　第二位 **18 票**「米」　第三位 **9 票**「高」

４　今後の教育課程の変更見込み

５年後の学習指導要領改訂に伴い、現在「技術・家庭科」として一教科であるものが、**「技術科」と「家庭科」の 2 教科に分割**されることが共有されました。これにより中学校の教科は現在の９教科から 10 教科へ増加します。この変更は、小学校から高等学校まで一貫した情報・DX 教育を強化するという、より大きな教育改革の流れの一環であると言われています。

※次回３学期に第４回学校運営協議会を開催予定